

令和6年度 第1回鶴岡市スポーツ推進審議会 会議概要

- 日 時 令和7年3月24日（月）午後1時30分から午後2時35分
- 会 場 つるしんアリーナ小真木原大会議室
- 審議事項 令和7年度スポーツ団体への補助金交付について
- 出席委員 村田久忠会長、山本益生副会長、佐藤祐司委員、丸山春男委員、佐藤利浩委員、鎌田博子委員、佐藤真紀委員、佐藤しおり委員、佐藤信良委員、佐藤満子委員
- 欠席委員 阿部廣弥委員、布施愛加委員、里見研委員、和田恭司委員、兼子由香委員
- 市側出席職員 鶴岡市教育委員会 教育長 布川敦、同教育部長 永壽祥司、同学校教育課長 今野新一
同スポーツ課長 阿部三成、同スポーツ課長補佐 佐藤絵理、同スポーツ課主査 大川智之、同スポーツ課主査 松浦淳
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴人の人数 0人
- 審議経過 以下のとおり
- 協議題等：

4 議事

- (1) 令和7年度スポーツ団体への補助金交付について
→委員からの主な意見は以下のとおり

5 報告並びに説明

- (1) 令和6年度スポーツ振興主要事業等の実施状況について
→委員からの主な意見は以下のとおり
- (2) 令和7年度スポーツ振興重点施策について
→委員からの主な意見は以下のとおり
- (3) 人工芝グラウンド整備事業の進捗について
→委員からの主な意見は以下のとおり
- (4) その他 →委員からの主な意見は以下のとおり

4 議事

(1)令和7年度スポーツ団体への補助金交付について(委員から出された意見)

委員 国保関係の補助金と一般会計の補助金で見ますと、ウォーキング関係事業に対して両部署から予算化されているようですが、この意図を教えてください。

事務局 一般会計というのは教育委員会予算を指しております。国保の特別会計では主に健康寿命を延ばすという目的で行う様々な健康事業に対し補助をいただいております。これは平成の初期から続いている仕組みで、補助をいただくとともに連携し事業を進めております。事例をあげますと、てくてく健康里山歩き事業の際は国保年金課の職員からも協力をいただくというように教育委員会と健康福祉部が連携し市民の健康づくりに繋げていくという施策であると認識しております。

委員 私は初めてスポーツ推進審議会委員となりました。資料3ページの「健康・スポーツ推進

事業」16番「藤島文化スポーツ事業団」への補助金で421万円とありますが、例えば、旧朝日村や温海町、櫛引町などは無く、旧藤島町だけに補助金を出しているということでしょうか。

事務局 公益財団法人藤島文化スポーツ事業団への補助につきましては、所在地は藤島地域にあります。市全体を対象にしたスポーツ推進を目的としスポーツインストラクターの資格を持つスタッフが健康づくりの指導を行っているものです。

委員 公益財団法人藤島文化スポーツ事業団については、市の合併からの経緯の部分もご説明をお願いします。

事務局 藤島文化スポーツ事業団につきましては、市町村合併以前より設立されている組織であり、現在は公益財団法人として活動されております。主な業務内容は市全体の健康づくりのほか、藤島体育館のトレーニングルームの管理も事業団の職員であるスポーツインストラクターを配置しており、市町村合併後も引き続きスポーツインストラクターに関することや市全体の生涯スポーツ・健康スポーツの指導に対し補助を行っているものです。また、他の地域については、資料5番から10番までの「各地域体育協会等育成委補助金」におきまして、各地域の体育協会等に対する事業補助として補助を行っており、佐藤信良委員が会長を務めておられる鶴岡地区体育協会連絡協議会には、例を挙げますとシルバーレクスポ大会や生涯スポーツ研修会などの事業に対し補助を行っております。

5 報告並びに説明

(1)令和6年度スポーツ振興主要事業等の実施状況について(委員から出された意見)

委員 今説明をお聞きし、生涯スポーツとして競技スポーツの普及はしっかり推進されていると思いました。特に生涯スポーツについては、合併後約20年、私もスポーツ推進活動させていただいて感じたのは、鶴岡市は生涯スポーツのイベントや行事の多さです。言い換えれば充実した生涯スポーツ活動を進めていると思います。その背景には宮下充正先生がご指導され、鶴岡の生涯スポーツをコーディネートいただいたと伺いました。ですが、先日、宮下充正先生が逝去されたという訃報に接して、令和7年度以降の対応について、今まで宮下先生のご功績等も含めて教えていただければありがたいと思って発言しました。

事務局 ご質問いただきました宮下充正先生についてですが、きっかけとしましては、平成4年べにばな国体以後の鶴岡市のスポーツ施策について、特に生涯スポーツの普及の進め方について宮下先生にご相談したことがきっかけと聞いております。平成5年の5月に、第1回目のてくてく健康ウォークという事業が、こちらの小真木原陸上競技場から金峰山の麓あたりまで歩くという宮下先生の指導を仰いだことがスタートとなっております。それ以来、宮下先生は当時、東京大学の現役の教授を務めていらっしゃいましたが、その後、東洋英和女学院や放送大学など勤務地が変わっても、鶴岡市との関係はずっと続けていただき、毎年のように来鶴されております。昨年2月の羽黒で行われた雪上かんじきウォークが先生最後の来鶴になりますが、先ほど委員がおっしゃる通り、今年の1月3日に、病でご逝去されました。大変残念でありますとともに、本市に対しまして、偉大な功績を果たされたと思っております。先生は、80年前に湯野浜に学童疎開されたことをきっかけに本市に対する思いが非常に強く、これまで非常に熱心に、多くのご指導をいただきました。このように撒いていただいた種を育て花開かせていただいたので、これからはその花をどう守っていくかというのが、残された我々の使命だと思っております。今後については、昨年のおかスリーデーウォークでもご指導いただきました、日本市民スポーツ連盟の会長であり、医師でもある

川内会長様にも相談しながら、ウォーキング等の健康づくり事業の進め方について検討してまいりたいと考えております。

委員 P 4、1市民の健康につながる生涯スポーツの充実、(1)個人のライフスタイルに合わせたスポーツ活動への動機づけによるスポーツ実施率の向上、④つるおかスポーツチャレンジの実施とあり、成果と課題について、企業向けにも広報したものの参加がなかったと記載されている。我々経済界としても反省しなければならないところが多々あると思うんですが、やはり広報の仕方において、鶴岡商工会議所とか、或いは商工会、当然鶴岡市の商工観光も含めて、一体でのこれ取り組みをやっていく必要があるかと思えます。それと、もう1つ観光も含めての話なんです。スポーツツーリズムの観点から、ジャパンソフトバレーボールなど、全国から本当集まってこられる大会がありますが、せっかくの機会ですので、市民への周知や或いは来ていただいた方々に対するおもてなしの観光のところで、お手伝いできれば、広がりも出るのではないかなというふうに思われます。ぜひ鶴岡市を挙げて一体での取り組みができればいいのではないかと思います。

事務局 ご提案ありがとうございます。やはり周知方法が不足していたのではないかと反省する部分が多いと思えます。これまでの企業への説明は、多勢いる工業団地の方々に対する管理組合の総会へ出向いて説明し、それぞれの社長様に協力をお願いしましたが、なかなか取り組みづらかったという声が多かったようです。今後も手法については、また検討して参りたいと考えております。また、スポーツツーリズムにつきましては、貴重なご意見だと思います。盛り上げとして、ジャパンソフトバレーボールフェスティバルでも「でがंस」などの団体からはお手伝いいただきながら、庄内柿の販売や発送など対応いただいておりますが、それ以上に何ができるかということを検討してまいりたいと思えます。

会長 P 6、(3) トップチームなどの大会・合宿誘致による地元アスリートの競技意識の高揚、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）による交流の継続の中で、⑤東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン相手国をはじめとするスポーツを通じた国際的な交流の推進について、ホストタウン相手国との交流で継続しているものがあれば教えていただきたいです。

事務局 はい、大きくはパリのオリンピック・パラリンピックの際、モルドバに対しては、鶴岡で事前合宿した際に非常に交流があったアーチェリーの関係の団体、高校生や社会人の皆さんからビデオメッセージを作ってくださいまして、モルドバ共和国のオリンピック委員会の方へ送りましたところ、「非常にありがたかった」「勇気づけられた」というコメントの返事をいただいております。そして、パラリンピックのドイツのボッチャチームについては、佐藤満子委員が会長を務める鶴岡市身体障害者福祉協会の皆様よりご協力いただき、鶴岡で合宿した際に、協会の皆さんとの様々な交流によってできた繋がりから、選手へのビデオメッセージを撮っていただき、ドイツのボッチャチームのスタッフに送りましたところ、「非常に勇気づけられた」というようなメッセージをいただいております。今後、直接の行き来というのは難しいとは思いますが、こういった媒体を使った繋がりを今後も継続してまいりたいと思えます、またドイツについては、オリパラをきっかけに、村田会長が中心となり庄内日独協会を設立されたということですので、そういった団体とも連携を取りながら、何らかの交流を図っていければと考えております。

(2)令和7年度スポーツ振興重点施策について(委員から出された意見)

委員 P17の②子どもがスポーツ活動を楽しめる環境の整備とありますが、やはり最近は子どもの遊び場については新聞などでも取り上げられているとおりに少ないと思います。特に屋内で遊べる場所が無いということも市民にとって関心ごととなっています。そのような中、「子ども夢スポーツフェスティバル」は前年度900名弱の参加があり、そのほかにも鶴岡市スポーツ協会の方で「子どもの遊び場」開放イベントを年数回実施されています。「子ども夢スポーツフェスティバル」と「子どもの遊び場」の連携はあるのですか。それと、特に「子ども夢スポーツフェスティバル」については、広い鶴岡市ですので、時間帯ごとの参加状況なども確認し、昼頃の参加が多い等分かったのですが、地域ごとの参加状況は把握できない状態でしたので、今回はそういった情報も把握できると、後々生かせるのかと思いますのでよろしくお願いします。

事務局 はい、ただいまのご質問ですが、1点目の子ども夢スポーツフェスティバル、そしてスポーツ協会で行っている「子ども遊び応援」という事業の関係なんですけども、スポーツ協会が実施している遊び応援というのは、年間4回行っております。時間帯としては、午前午後またいでやっておりますけれども、2年前の6月に約400人の参加者が一番多く、徐々に人数が落ち着いてきて、現在の参加者は100人前後で推移しております。実施主体は市スポーツ協会であり、子ども達の安全の見守りや、大玉転がしなど人気のある遊びについては独り占めがないように、時間で制限するなどのコントロールをしているようでした。今まで好評な状況において開催をいただいて、誰一人怪我無く経過しておりますので、また来年度も、年間4回の開催を計画されているとお聞きしておりますので、ぜひ、我々としても協力したいと思います。

あと、子ども夢スポーツフェスティバルについては、10月の体育の日を中心とし設定したイベントですが、これは2年前からJA鶴岡だだちゃアリーナに会場を移しまして開催しております。昨年度は945人の参加、前回に比べ100人ほど減りましたが、やはり小さい子どもと保護者の皆さんが非常に楽しくスポーツに取り組むきっかけづくりに繋がっていると思います。

それから時間帯については、委員からも、受付とその当日のイベントを手伝っていただいたので、ご存じかと思いますが、地域別の統計というのは無かったですので、これについてやはり、今後いろんな分析していく上で必要だと思いますので、来年度のこのイベントの際にはぜひ、アンケートを行う際に取り入れてみたいと考えております。

会長 P17の③休日における中学校運動部活動の地域移行の推進ということですが、令和3年度で方針を決めてから4年5年6年と、コロナ禍もありましたが、3年間たって、この4年目になるわけですけど、現状の風貌が分からないので、状況が分かれば、どのように変化してるのか教えていただければと思います。

事務局 今ご質問がありました、中学校部活動における土日地域移行について簡単に概略を申し上げます。令和4年度から準備をいたしまして、令和5、6、7の3カ年で、3カ年推進期間と位置付けまして、取り組みを始め2年目になります。

本来持続可能な形でのクラブ経営ということを考えたときに、鶴岡独自の救済措置といたしまして保護者会クラブというものを設置しております。

これは毎年保護者会長さんが変わるということで、お子さんが卒業すると交代していくという形で、これがずっと続く形ではないだろうと言いつつも、この推進期間の間は、それも認めて地域クラブ

というふうに位置付けて取り組みをしております。

その関係もありまして、昨年度から、まず100%の形で、地域移行は進んでいるというところがございます。

ただ、今申しあげました通り、救済措置としてのクラブもありますことから、来年度、まず1年間かけて求める姿に沿う形に持っていきたいと思っておりますが、その中で、やはり活動場所が広域になってしまっていること、或いは保護者の送迎の問題、指導者の確保の課題等がありますので、そのあたりも教育委員会から積極的な働きかけをしながら、一緒に課題解決に向けて取り組みを進め、来年度いっぱいでは何とか進めて参りたいというふうに考えている状況でございます。以上です。

(3)人工芝グラウンド整備事業の進捗について(委員から出された意見)

会長 今後のスケジュールは

事務局 令和7年度に基本設計および実施設計を行いまして、令和8年度から整備工事に着工します。

約1年間の工事ですので、令和9年の秋までには、施設がすべて整備されるものと見通しを立てております。

委員 計画に対して今からではちょっと遅いかと思いましたが、若者のためにですね、例えば、パリオリンピックや東京オリンピックでも種目にもあったスケートボードなどの施設を作る予定は現時点では無いですか。要望としては、若者が、例えば中学生や高校生、一般の20代前半ぐらいの人までだと思いますが、結構人気のあるスポーツなので、けがの心配もありますが、今は難しいかもしれませんが検討いただけたらと思います。

事務局 ただいまのご質問ですが、やはり活用検討委員会の中でもそういったご質問あったんですが、今回提示しております計画図については、縮尺が非常にきつい状態で詰め込んでいるような状況であります。ですので、例えばこのスリーオンスリーの脇に入れるなどは非常に厳しい部分がありますので、まずこの多目的ゾーン、若者ゾーンの中にアーバンスポーツを入れるというのはこちらでは考慮していない状況です。

(4)その他(委員から出された意見)

会長 先ほど、事務局からの中学校部活動地域移行のお話がありましたが、予算的には学校教育課の予算だと思いますが、地域移行に関して補助金があると思います。6年度分の状況と、7年度予算について教えていただきたいです。

事務局 今年度分の予算についてお知らせいたします。各種目団体で大会運営とか指導者育成をするために使ってくださいというようなことで、各13種目の団体、これは中体連で登録してある種目団体ですけども、その団体に、各50万×13団体で650万の予算を今年度計上しております。ただ、いろいろな団体にこちらが働きかけをしたところ、本年度は5団体から手を挙げていただいて、申請いただき、計250万の執行をしているところでございます。残り400万円につきましては、今年度は執行できなかったという状況になっております。

来年度の予算につきまして今議会の方で審議していただいている状況ですので、これは差し控えさせていただきますと思います

委員 資料を見させていただいて、ちょっと感じたことなんですけれども、身体障害者が出かける時

には、一番気にすることが、トイレのことでありまして、トイレの洋式化は、この審議会でも話が出されてありまして、財源の確保、修繕の順番もあることだったんですけども、このたび改修費2,500万ほどかけて、この利用者が多い鶴岡市の体育館の洋式トイレ化の改修が終わって、昨日ちょっと入ってみまして、とてもよかったなあと感じました。もう1つなんですけれども、障害者スポーツの振興、スポーツを通じた地域共生社会づくりとしまして、鶴岡市スポーツ推進委員会の研修会の中に、9月にフライングディスク、卓球バレー等が載っておりました。昨年10月なんですけど、山形県からスポーツ指導者協議会主催で卓球バレーの講習会が開催されましたときに、当協会から7名が参加しまして、4名が審判員の資格認定証を受けました。ボッチャ競技は、年齢を問わず、子供から高齢者までの広がり、シルバーレクスポ大会では種目をボッチャに絞って開催など、毎年多くの市民の皆様から親しまれて楽しまれてきております。毎年開催しております市長杯のボッチャ競技大会は、色々な障害を持っている皆様から、開催の日を心待ちにしておられる実情であります。最後に障害者、高齢者の皆様が社会参加、健康促進として、気軽にスポーツを楽しめる場づくりなど、機会の提供を進めていただきますように、皆様方のご協力をよろしくお願ひしたいと思ひますというお願ひでございました。